

大久野島未来づくりワークショップ

石丸 賢（中国新聞 論説委員）

大久野島の

「ちょっと気になること」

ウサギが増えて、観光客も増えて、魅力がいっぱいの大久野島。でも、なんだかすこし、モヤモヤすることも増えているようです。

ウサギやネコ等の
遺棄



人と動物共通の
感染症発症のリスク



ウサギへの
過度の接触



ウサギの
個体数の増加と
病気・負傷個体の
増加



ゴールデンウィークや
お盆などの
混雑期の対応



食べ残したエサによる
ネズミの増加や
イノシシの出没



過剰なエサやりと
食べ残した
エサの放置



フェリー
待合所



休暇村
大久野島



イヌなどの
ペット連れ
来訪者と
他の来訪者の
トラブル



大久野島
毒ガス資料館



島内の
自転車利用の
ルール



無断で
設置されている
ウサギの水桶



大久野島
センター



ワークショップの開催日程

- 第1回 2019年10月30日（水） 道の駅たけはら
- 第2回 2019年11月26日（火） 休暇村大久野島
- 第3回 2019年12月20日（金） 竹原市民館
- 第4回 2020年1月17日（金） 竹原市民館





増えた
ウサギ

客

Handwritten notes on the left whiteboard include:

- 増えた (Increase)
- ウサギ (Rabbit)
- 客 (Customer)
- 増えた (Increase)
- 増えた (Increase)
- 増えた (Increase)
- 増えた (Increase)
- 増えた (Increase)
- 増えた (Increase)
- 増えた (Increase)

増えた
関係性

Handwritten notes on the right whiteboard include:

- 増えた (Increase)
- 関係性 (Relationship)
- 関係性 (Relationship)
- 関係性 (Relationship)
- 関係性 (Relationship)
- 関係性 (Relationship)
- 関係性 (Relationship)
- 関係性 (Relationship)
- 関係性 (Relationship)
- 関係性 (Relationship)



大久野島の

「ちょっと気になること」

① ルールの共有化ができていない(ウサギ)

- ・ 混ざり (観光客の分散化)
- ・ 宿泊施設が高い

② ウサギや他動物を育てる

③ えさかごみになる

- ・ 施設の老朽化
- ・ オアシスサイト

④ 観光客の行動のルール, マナー (自陣)

- ・ 元の自然の姿 (ウサギ)

⑤ 港の問題, 駐車場, 危険性の増加

・ ウサギの個体数管理

・ 主体の不在

・ えさ以外のごみ





表1: 各事業部の売上実績 (単位: 億円)

事業部	2023年	2022年	2021年
製造事業部	120.5	115.2	110.8
サービス事業部	85.3	82.1	78.9
流通事業部	60.7	58.4	55.6
その他	15.2	14.8	14.5
合計	281.7	270.5	260.6

表2: 各事業部の利益実績 (単位: 億円)

事業部	2023年	2022年	2021年
製造事業部	35.2	33.8	32.5
サービス事業部	25.1	24.5	23.9
流通事業部	18.3	17.8	17.2
その他	3.6	3.5	3.4
合計	82.2	79.6	77.0

議論のルール

「フィンランドの小学生が作った」として紹介されているルールを参考にした



引用：北川達夫・フィンランド・メソッド普及会（2005）『フィンランド・メソッド入門』

1. 他人の発言をさえぎらない
2. 話すときは、だらだらとしゃべらない
3. 話すときに、怒ったり泣いたりしない
4. わからないことがあったら、すぐに質問する
5. 話を聞くときは、話している人の目を見る
6. 話を聞くときは、他のことをしない（手遊びはOK）
7. 最後まで、きちんと話を聞く
8. 議論が台無しになるようなことを言わない
9. どのような意見であっても、間違いと決めつけない
10. 議論が終わったら、議論の内容の話はしない









ワークショップの手順

取り組むべき課題の整理：4グループ18件



課題グループごとに、解決のアイデア出し：108件



基本姿勢の設定：「大久野島未来づくりサイクル」



具体的アイデアの精査：108件 → 37件

ワークショップの成果

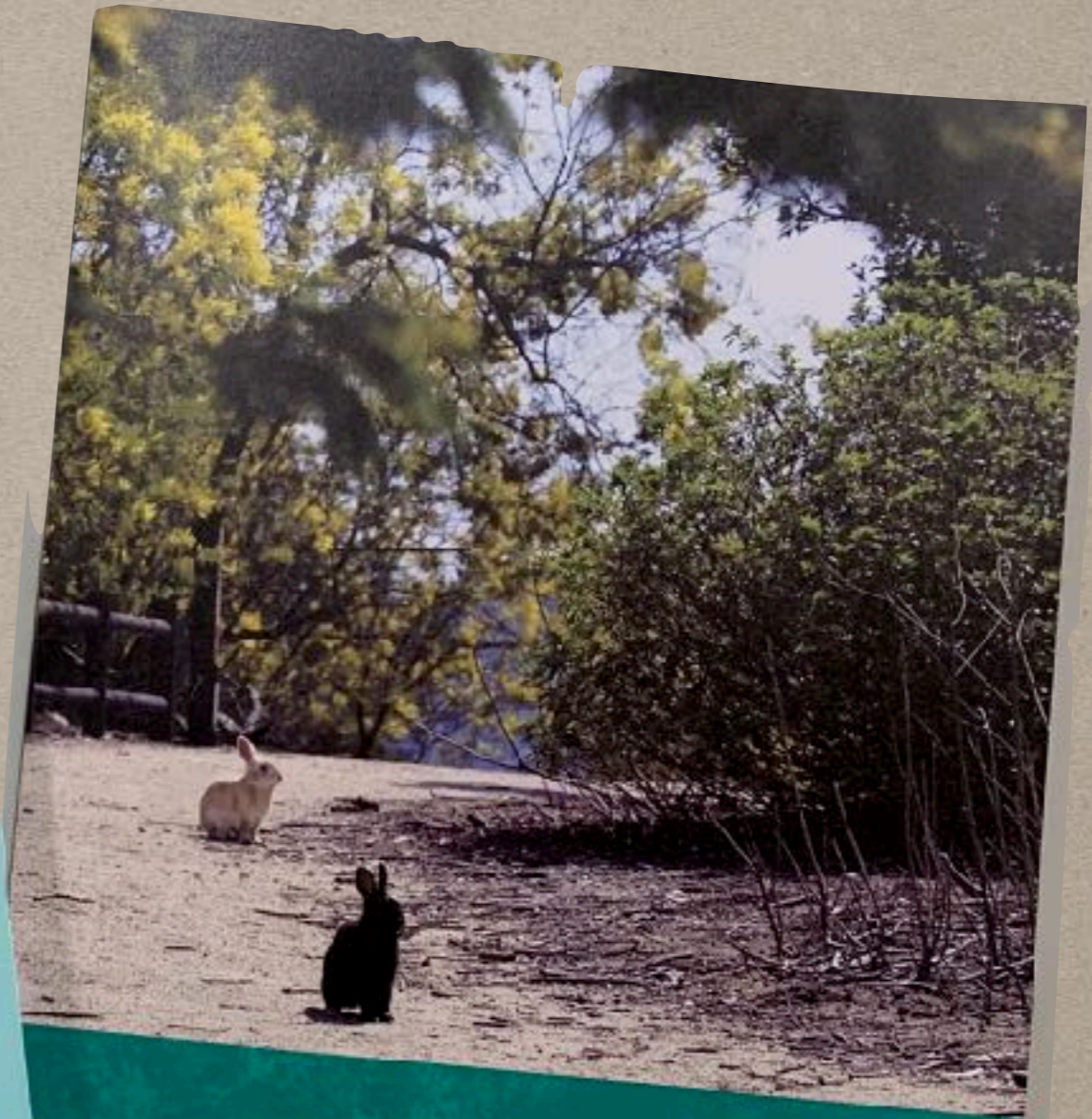
大久野島 未来づくりノート

OKINOSHIMA FUTURE-DESIGN WORKSHOP

9th 20, 10th 19, 11th 18th Taketaka 2
 12th 26, 2019, Fukuoka-shi, Okinoshima
 13th 29, 2019, Taketaka-city Public Hall
 14th 17, 2020, Taketaka-city Public Hall

I 本編	6
1 大久野島の課題	6
2 大久野島の未来：目指す姿と実現のためのプロセス	9
3 具現化や実行に向けて「優先的に検討していく項目」	17
4 ワークショップを振り返って	23
II 資料編	26
1 ニュースレター	26
2 大久野島知事会の内容	36
3 大久野島Q&A	43
4 大久野島ビジターセンター見学アンケートの結果	55
III ワークショップ参加者の声	62
1 ワークショップに参加しての感想	62
2 今後の期待	68
3 大久野島未来づくりワークショップ参加者	73

CHUGDOU-SHIKOKU REGIONAL ENVIRONMENT OFFICE
 MINISTRY OF THE ENVIRONMENT, GOVERNMENT OF JAPAN



大久野島と私たちのこれから
 —ワークショップの成果より—

環境省中国四国地方環境事務所

ACT

合意形成の場を作りたい

自然、歴史、観光など、様々な価値を持つ大久野島のあり方を考えるためには、協議会などの合意形成の場が必要です。

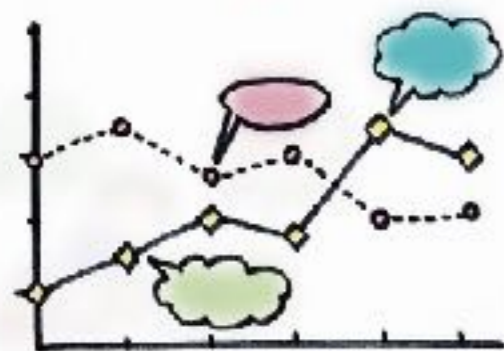
構成メンバーは、環境省、自治体、観光団体、民間業者、専門家、そして住民や来訪者などの個人が挙げられました。



PLAN

大久野島を訪れる際の、共通のルールや方針を示したい

ゴミの捨て方や自転車の持ち込みなど、一般的な観光地でのルールに加え、エサの持ち込みやウサギとのふれあいなど、大久野島固有のルールづくりが必要です。ルールづくりは、大久野島に関わる多様な主体が関わる必要があります。



大久野島の 未来づくりサイクル



定期的なモニタリングによりウサギ個体群や大久野島の現況を定量的に把握したい

エサの量や種類をどの程度コントロールすれば、個体数がどうなるのか、という対応は分かっていません。そのため、エサの量などは一度で決めてしまうのではなく、モニタリング成果をもとに、専門家などのアドバイスを受けて、次のやり方を決めていく「順応的管理」が必要です。



共通のルールや方針に基づいた取り組みを実施したい

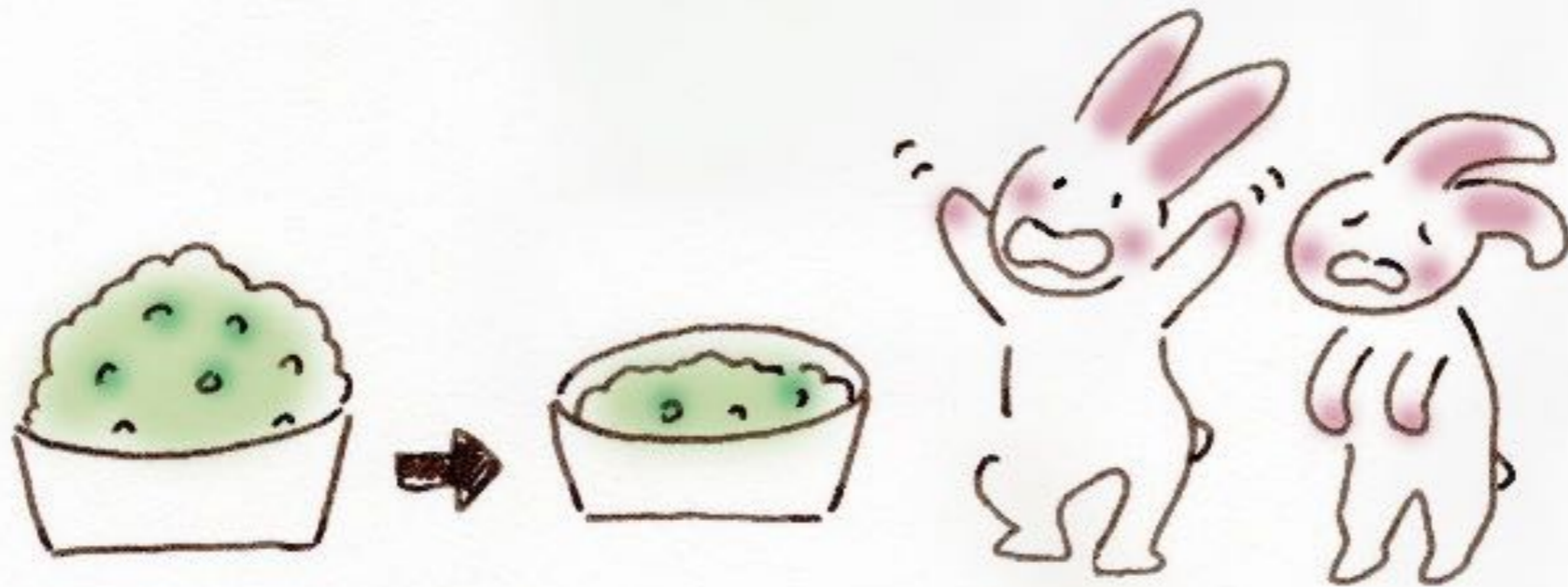
ウサギとの安全なふれあい、ウサギの個体群管理や個体管理、平和教育の推進や弱者への対応など、様々な課題に対応するには、基本的なルールや方針に従って方法を選択しなければなりません。また、ルールや情報を発信して、来訪者と共有することも重要です。



CHECK

Do

課題を解決するための 具体的なアイデア①



エサの量をコントロールすることにより、
ウサギの生息数が適正密度になる

課題を解決するための 具体的なアイデア②



ビジターセンターを中心に
「独自の環境教育」が展開される

課題を解決するための 具体的なアイデア③



大久野島の情報や訪れる際のルールが集約され、
広く発信される

ワークショップへの（個人的）感想と 今後への期待

- 議論の面白さ：多様性を、どう受け入れるか
- 言いつばなしではなく、一定の方向性が見られた
- 心地良いモヤモヤ
- 分断の社会の中にあって、相互の関わりによる
「価値観の変化」が感じられた
- 担当者の異動などに左右されない、取組の持続性